

都道府県対抗女子駅伝競走大会に出場して

物質化学工学科1年 西川 真由

私は1月13日に行われた「皇后盃 第31回都道府県対抗女子駅伝競走大会」に奈良県代表として出場しました。この大会はオリンピック選手から中学生まで出場できる大会です。私は3年連続で出場させてもらいましたが、

今年は6区という初めての区間、高校生として初めての出場だったので、去年とは違った気持ちで臨みました。しかし、総合46位、区間45位となり、自分の実力のなさを痛感しました。この結果を深く受け止め、来年の順位を上げるためにも、日々努力しようと思いました。



最終審査会での発表の様子

衛星設計コンテストに出場して… —宇宙太陽光発電技術実証衛星 STEPs—

電子制御工学科2年 三上 拓朗

2012年11月10日に、第20回衛星設計コンテストに出場しました。そして、本コンテストで奨励賞を受賞することが出来ました。当日は、全国から様々な学校が集まり予想以上に緊張しました。

私たちのチームでは、近未来を想定し宇宙での電力送電と衛星設計を変え

るため宇宙太陽光発電技術実証衛星というものを考案しました。設計する上で、力学や軌道工学、エネルギー送電について…といったような様々な知識・知恵を要することがあり挫折しそうな時もあり、衛星を設計する上での苦労を痛感しました。この経験を活かしさらに宇宙工学について理解を深めていきたいと思っています。

特許権を取得しました

機械制御工学専攻1年 青木 友作

平成22年度パテントコンテストに入賞し、約1年半の年月を経て、平成24年8月10日に特願2011-090978として特許取得ができました。すべてのきっかけは、当時担任だった福田先生の『タワシも特許だ』から始まりました。簡単なアイデアにあるにもかかわらず、機能としては十分で非常に役に立つ。このタワシのように生活の中で役に立ち、生活を良い方向に変える可能性を持つ特許というものに強く惹かれ、パテントコンテストに参加しました。私は日常生活の中の不便なことを便利にする道具を、考えてはメモすることを続け、その中で実現可能そうなものを抽出し、弁理士の先生、担当の先生、同級生、様々な人と議論し、助言をもらい特許となりました。この場を借りてご支援くださった皆様方に厚く御礼申し上げます。



特許証を披露する
青木君(左)と海本君(右)

ついに特許権!

電子制御工学科4年 海本 祐真

特許出願に向けて書類を書き始めたのは、昨年の2月のことでした。弁理士の方に手伝っていただいたので、書類は結構早い段階で完成しました。したつもりでいました。いざ出願しに行くとエラーの山、両親の住基カードの必要性にぶつかりました。その約2週間後によく出願ができました。ですがしかし突きつけられた「拒絶理由通知書」。半分くらいの出願者が通る道だそうですが、泣きそうでした。で、指摘された点を修正して再提出すること2回。昨年12月、ついに特許証をこの手にしました。3年間は特許料が免除されるので、今は4年目以降の特許料を稼ぐ方法を考えています。売れますよーに!

旧友への手紙 ～新聞に投稿して～

電気工学科3年 鎌田 翔



国語の授業で新聞記事の書き写しを始めたことをきっかけに、投稿欄に目を通す機会が増えた。あらゆる世代からの時事に対する見解を知ることができ、興味深いものがある。

そんな折、花園ラグビー場で行われた高校ラグビーの全国制覇の記事に旧友の名前を見つけ、その活躍ぶりに驚き、またこれまでの彼の努力を考えると脱帽の思いであった。この感動を文章にしようと思い立ち、

投稿した。その後、彼に手紙を出すと、すぐにブランクを感じさせない、以前と変わらぬ返信が届いた。今回のことがきっかけで彼との交流が再開できたことを本当に嬉しく思っている。

記事に友の名 手紙で祝おう

高校生 鎌田 翔
(奈良県生駒市 17)
小学生のころ、プロ野球選手とふれ合うキャンプに参加した。大阪から来た同年代の友達ができ、手紙や年賀状のやりとりを数年間続けた。その「ごっちゃん」と最後に会ったのは中学1年生の時。一緒にプロ野球を見に行った。彼は中学からラグビーを始め、こう言った。「吐くほどつらい練習もあるけど、楽しい!」

当時は携帯電話を持っておらず、連絡は次第に途絶えた。しかし先日、全国高校ラグビー大会の記事に見覚えのある名前があった。なんとごっちゃんのチームが全国大会で優勝。決勝戦で先制トライを決めた彼の活躍ぶりが紹介されていたのだ。まさに「初志貫徹」。ハードな練習を重ねて強くなったのだから。中高生の暗い事件が多い中、朗報に気持ちが一変した。まだ幼さが残る彼の手紙を取り出し、懐かしさで読み返した。SNSが盛んだったが、やはり手紙は心に残る。久しぶりに、ごっちゃんに便りを送ろう。この感動を伝えるために。

朝日新聞 2013年1月19日付け(若 声 い世代)

朝日新聞社の許諾を得て転載しています。

Speech Contest 2013

電気工学科3年 池端 祐太郎

On January 26, 2013, I had a great opportunity of performing a 7-minute speech in The English Presentation Contest for Students in Colleges of Technology. Since it was my first time to be on such a contest, everything was new and exciting. I learned a lot about speaking in front of people, and

made many friends from other Kosen throughout my 3 days in Tokyo. Though I couldn't receive any awards, it was a fascinating experience. I really thank Mr. Kanazawa, for giving me this great chance, and I hope more students, will be motivated to participate on these events.

